

各地で話題の病害虫

パセリうどんこ病

学名: *Erysiphe heraclei* de Candolle

英名: Powdery mildew

昭和58年、香川県香川郡の農家圃場において、春まきパセリに白色粉状物でおおわれた葉をつけた株が、多数発生しているのが確認された。

香川県農業試験場が調査した結果、うどんこ病菌であることが判明した。この病害はその後、愛



兵庫県立中央農業技術センター 入江和巳氏提供
媛県や千葉県、長野県にも発生が確認されている。

本病の特徴は、葉の表裏を問わず葉柄を含めて白い粉に覆われたようになり、いわゆる典型的なうどんこ病の症状を呈する。り病株の生育はやや劣り、り病部はやがて黄変し枯死する。

本菌は外部寄生性であり、分生子は分生子柄上に単生し、無色単胞、長楕円形で、大きさは平均 $46.3 \times 18.7 \mu\text{m}$ である。

接種試験の結果、本菌はニンジン、ヤブジラミに強い病原性を示し、ニンジンうどんこ病と同じ菌 *Erysiphe heraclei* と同定された。

防除対策としては、被害茎葉の早期拔取りなどによる耕種の防除で対応する。

カーネーション根腐病

学名: *Pythium irregulare* Buisman

Pythium aphanidermatum (Edson) Fitzp.

英名: Pythium root rot

東京都及び千葉県のカーネーション栽培温室内で、カーネーションのさし木苗に根腐れ症状を起こす被害が発生し問題になっている。これらの被害株から分離した2菌株を横浜植物防疫所調査研究部病菌課が同定した結果、東京株は *Pythium*



横浜植物防疫所

irregulare 千葉株は *Pythium aphanidermatum* であることが判明した。これまでカーネーションに病原性を示す *Pythium* 菌には *P. ultimum*、*P. debaryanum* など数種知られているが *P. irregulare* 及び *P. aphanidermatum* がカーネーションから確認されたのは初めてのことである。これら2菌株の生育温度はかなりの違いがあり、*P. irregulare* は5℃以下でも生育するが、33℃では生育できず、生育適温は25℃付近である。一方 *P. aphanidermatum* は10℃では生育できないが、40℃以上でも生育可能で、生育適温は30~35℃である。

Pythium 菌による根腐病の発生生態については十分に解明されておらず、今後の研究が待たれる。

モモノハマキマダラメイガ

学名: *Psorosa taishanella* Roesler

平成2年夏に和歌山県内のウメ園の一部で、モモノハマキマダラメイガによる被害が確認された。翌年の平成3年7～9月には大発生して、本種の食害により100%落葉したウメ園地が、おおよそ100haにも及んだ。また、スモモ、モモ、サクラでも被害が確認され、発生面積は1,000haと推定されている。

本種は1972年に記載されたマダラメイガの一種で、食樹としてモモなどが報告されているが農作



和歌山県果樹園芸試験場 夏見兼生氏提供

物に対して被害を与えた記録はなく、これまで害虫としてまったく知られていなかった。

幼虫はウメの葉を数枚綴って内部から食害して成長し、老熟幼虫は体長15mm程度になる。

成虫は開長15mmで、前翅は黒く、中央部にある白色の内横線がきわめて鮮明である。

防除法としては、本種の被害がウメ園の周辺部から発生することから、早期発見して防除することが大切である。また、防除薬剤としては、ペルメトリン水和剤やMEP乳剤によるアブラムシ類との同時防除が有効である。

本種の発生生態などについては不明なところが多く、今後の研究が待たれている。

ヨメナスジハモグリバエ

学名: *Liriomyza asterivora* Sasakawa

平成3年春頃から埼玉県内の宿根アスターにハモグリバエの一種が発生し、その被害が急速に拡大した。これを今年5月に元京都府立大学教授笹川満廣氏が同定したところヨメナスジハモグリバエであることが判明した。本種はヨメナ、アスターなどに寄生するハモグリバエであるが、農作物への被害が報告されたのは初めてで、埼玉県のほかに沖縄県、佐賀県からも最近報告されている。

本種の形態は、成虫、幼虫ともにマメハモグリ



埼玉県病害虫防除所 村上正雄氏提供

バエに形態がよく似ており、肉眼での識別は困難である。成虫は体長約2mmで、頭部、胸部及び腹部の側面は黄色で、その他の部分は光沢のある黒色である。幼虫はウシ状で老熟すると淡黄色を呈し、体長は1.5～2.0mm、後気門孔は3個ある。幼虫は葉裏から脱出して土中で蛹化し、蛹は黄褐色、体長は1.5～2.0mmで腹面はやや扁平である。

被害は、幼虫が葉肉に食入し、最初は螺旋状、後に不規則な線状の食害痕を残すため、著しく商品価値が低下する。

防除法としては、早期発見して被害葉を摘除し、土中深く埋没するか焼却処分することが大切で、今後発生消長などの生態研究が待たれる。